

街角には郷愁が漂う

シリーズ 街並み再見 4

歴史上有名な鐘を造った鋳物の里五位堂辺り

◆ 歴史的事件と 鋳物の里・五位堂

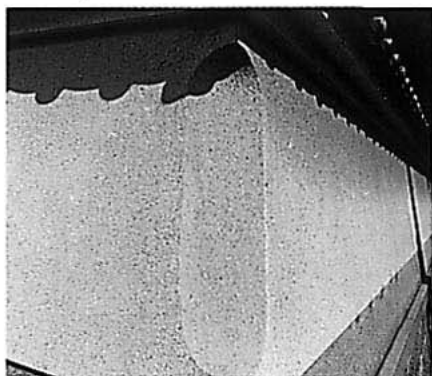
国道一六八号から良福寺の地域を東へたどると五位堂へ入ります。JR和歌山線の踏み切りを越えると、熊谷川にかかる五位堂橋があります。橋のたもとに酒造会社があります。ここは以前「水のトピックス」の時に取材させていた所です。その白壁の建物を右手に見ながら直進すると、すぐに徳蔵院という寺院の本堂が、そして横には見上げる位置に鐘楼がありました。お寺の鐘といえは、この五位堂とは思えない縁があるのです。

香芝の鋳物師は奈良時代にもさかのぼるといわれています。下田と並んで五位堂の鋳物の歴史も古く、あの大坂冬の陣・夏の陣を引き起こす理由となったといわれる京都・方広寺の鐘銘事件、その鐘

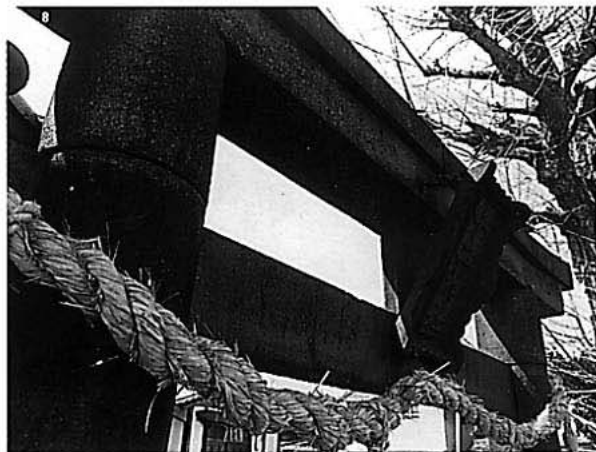
を鋳造した鋳物師に五位堂の津田五郎兵衛氏も含まれていました。「君臣聖業 国家安康」という文字は家康を切腹したように取れるという事でした。ちなみにその鐘はいまでも京都の方広寺の鐘楼に何事もなくあったように納まっています。

◆ 珍しい鋳物の 鳥居のある十二神社

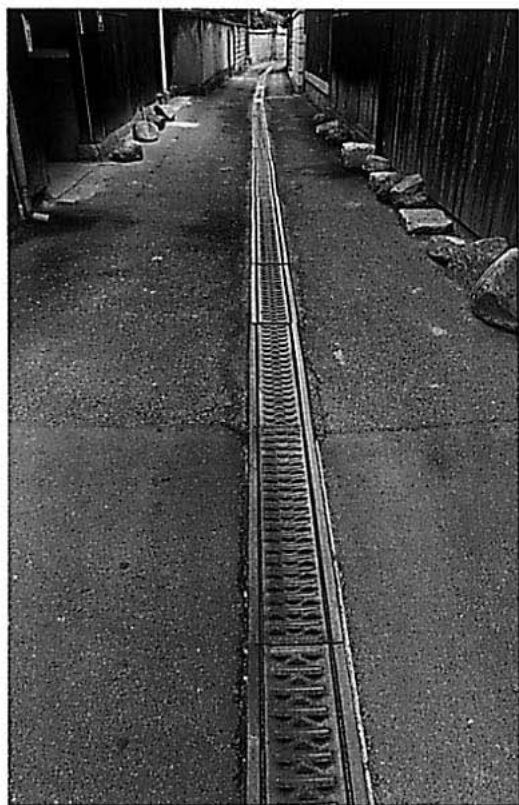
徳蔵院の横は細い路地になっていて、ちょっと面白い景観。隣の神社の塀越しに楠の木が空にそびえ、その向こうには巨木の枯木があり、路地がぐんと奥行きを感じさせます。そのまま歩くと不思議な空間に至るような、そんな雰囲気漂っています。白壁の塀の角はまるでスプーンですくった跡のように面とりがしてありました。たぶん危険がないようにということなのでしょう。



ぐるっと神社の塀に沿って正面へ回ると、これは珍しい鋳物製の鳥居がありました。茶色の鳥居は新しいしめ縄が張られていましたが、普通の石の鳥居に比べてどっしりと重厚なイメージがあります。柱の右側には「奉納天保十年己亥三月吉日」とまた左には「施主 御鋳物師 杉田越前大掾 藤原美信」と銘されてありました。いかにも年季の入ったという感じがです。



十二神社の境内は美しく掃き清められていて、ひっそりとしていました。拝殿でしょうか、手前の建物の左にねじれたような格好で松の古木があり、その奥が本殿のようです。さっきの楠が茂っていた所は本殿のある敷地でした。そ

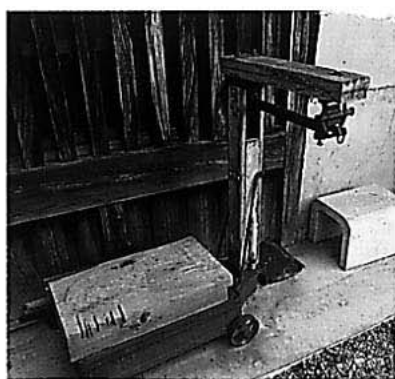


の横にこれも珍しい鋳物製の灯籠が仕舞われていました。たぶんそれらも鳥居と同じように、江戸時代に奉納されたものなのでしょう。

◆ 小道の真ん中には 鉄製の溝

十二神社を後にして昔ながらの道を北へ。細い路地が左右に走っていて、のどかな風情。よく見ると路地の中央に鉄製のふたをしたような溝が走っています。それにしても道の中央というのが不思議です。何かしら昔からの仕切りのような役割もあったのでしょうか。この辺りの小字は本屋敷というそうです。昔ここには大和朝廷の豪族として活躍した大伴金村の屋敷があったという伝承があります。五位堂という地名もこの子孫に由来しているそうです。

十二神社の隣にはコンクリート造りの宝樹寺の御堂が見えます。この寺には市指定文化財の阿弥陀如来坐像が安置されています。少し北へ歩くと円融寺の長い土塀があります。それにしてもこの一帯には寺社が集まっているようです。円融寺の白壁はどっしりとした屋根を上に見せて、黒塗りの建物の重厚さと見事に調和しています。民家の塀から白梅の花が眩しく輝いて見えています。この一面を進んで行くと、懐かしいノスタルジアを感じる風景が次々と展開するようです。



民家の前に置かれた、今は懐かしい台ばかりを見て、少し歩くと水門のようなものがあった、その辺は道がすれたように曲がっています。そのたもとに小さな祠がありました。これがまた珍しい鋳物製の灯籠を祭っているのです。鋳物産業の里として栄えてきた五位堂らしい信仰の歴史を今に残し

ているのです。

◆ カラフルなお地藏さんと 近代的な駅前

まっすぐ北へ歩いていくと辻に当たるところに地藏堂がありました。ちよっと手を合わせてから、格子戸から中をのぞくと、ほの暗い御堂の中がぱっと晴れやかになるようなカラフルな前垂れを付けたお地藏さんがおわいました。見ているこちらまでが明るくなるような、そんな気持ちにさせる可愛いお地藏さんでした。

駅が近いせいでしょうか、道もこの辺りまで来ると人通りが多いような気がします。近鉄五位堂駅まではほんの少しの距離ですが、近づくにつれて商店やビルが増えてきます。

踏み切りを越えて駅の北側へ回ると、そこは駅南とはまるでイメージが違って見えます。バスターミナルや並木を植えた道路が整然として、すっかり近代的で開放的な場所です。「かつらぎの道」という自転車専用道路が真美ヶ丘ニュータウンへと続いているそうで、交通の要所としての五位堂駅を示しています。駅へのスロープから見える二上山が二つの峰をくっきりと見せていました。市内はどこからでも二上山が見えますが、この辺からの姿が一段と美しいようです。